

174年

熹平三年（漢）

皇帝

劉宏（漢靈帝）

皇后

宋氏（諱某）

皇太子

（空位）

三公

太尉：（空位） 陳耽（前太常・174~176）

司徒：袁隗(?~176)

司空：唐珍 許訓（前永樂少府・174~176）

その他の要職

太常： 陳耽

光祿勳：

衛尉：

太僕：

廷尉：

大鴻臚：

宗正：

大司農：

少府：

大將軍：

驃騎將軍：

車騎將軍：

衛將軍：

地方官

揚州刺史：臧旻(172?~174?)

主な事件

- ▶ 春正月、夫餘國から貢獻の使者が来る《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 二月、天下に大赦を下す《後漢書孝靈帝紀》

太常の陳耽を太尉とする《後漢書孝靈帝紀》

- ▶ 三月、中山王劉暢が亡くなり、子がなく國は廃止された《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 夏六月、河間*王劉利の子の劉康を濟南王とし、孝仁皇の祭祀を奉った《後漢書孝靈帝紀》
@孝仁皇は劉宏の父劉蒼。追尊して孝仁皇とした。
 - ▶ 秋 洛水が溢れた《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 冬十月癸丑、天下に令を下し、囚人でまだ罪が未決の者に絹を納めて購わせた。《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 十一月、揚州刺史臧旻は丹陽太守陳寅を率いて、許生を会稽に大いに破り、之を斬った《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 任城王劉博亡くなる《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 十二月、鮮卑が北地郡を侵した。北地太守夏育は追い討ち破った。鮮卑は又并州も侵す《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 司空唐珍が罷め、永樂少府の許訓を司空と為す《後漢書孝靈帝紀》
-
- ▶ 是年、曹操は年二十。孝廉に挙げられ郎となる。その後、洛陽北部尉と為る《三国志魏書武帝紀》尚書右丞の司馬防（字建公）が北部尉に推挙した。曹操が公から王となった時、昔を懐かしんで建公を?に召して「今でも尉とするかね」と聞くなどして歓談する《三国志魏書武帝紀に引く曹瞞傳》

生誕者

死没者

[PAGE TOP](#)

[173年 <<](#) [>> 175年](#)